

2019 | 12月期 決算説明会資料

(2019年1月1日～2019年12月31日)

2020年2月27日

日本フェンオール株式会社

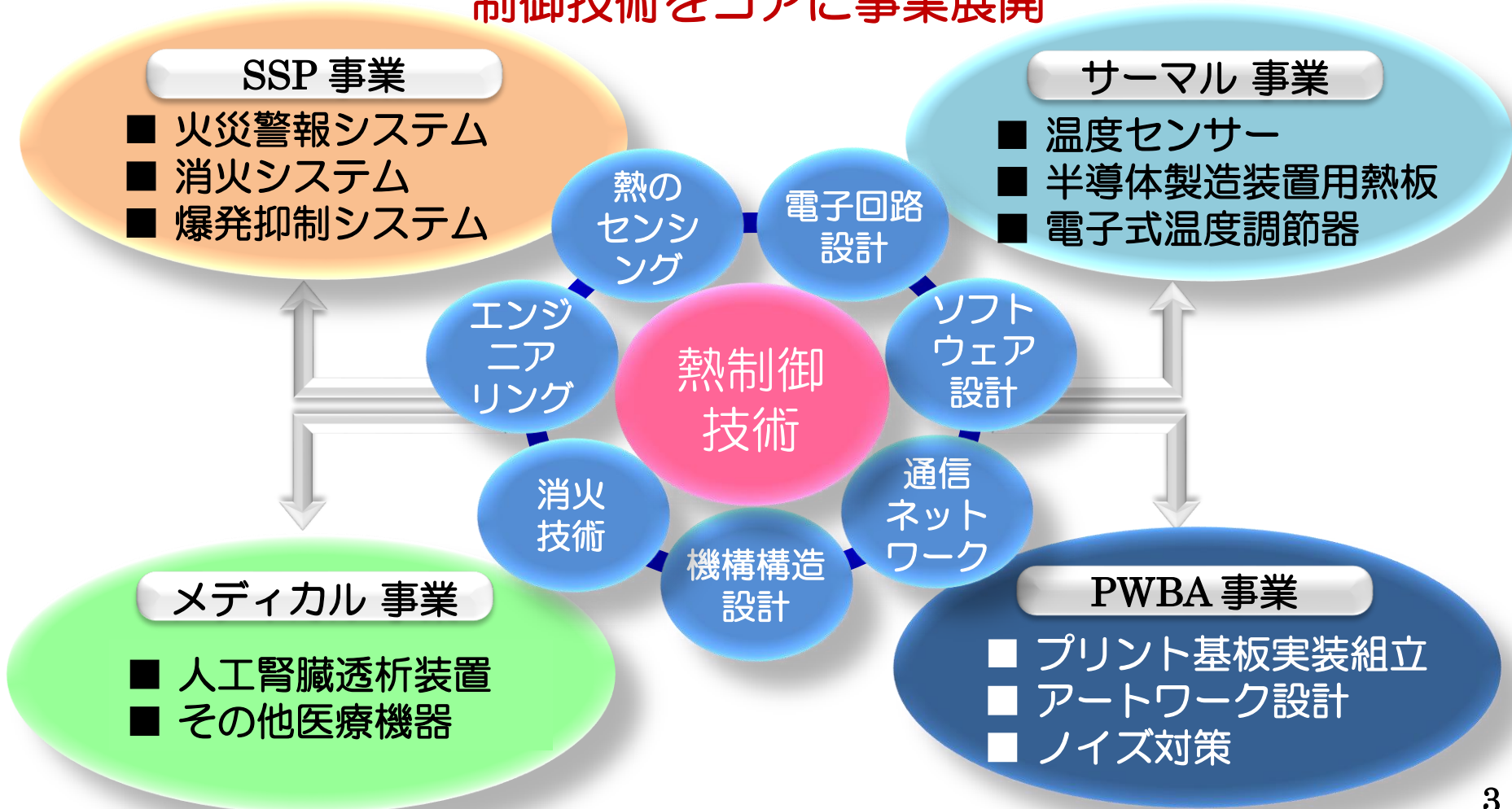
Contents

	頁
1. 事業概要	2
2. 2019年12月期 通期 決算概要	4
セグメント別実績	8
投資・財務概況・経営指標	15
3. 2020年12月期 通期連結業績見通し	21
2020年12月期 配当について	24
4. 新製品開発状況	26
5. 参考資料	28

1. 事業概要



制御技術をコアに事業展開



2. 2019年12月期 通期 決算概要



2019年12月期 通期の業績サマリー

前期比 売上高△17.2% 営業利益△49.7% 減収減益

(単位：百万円)

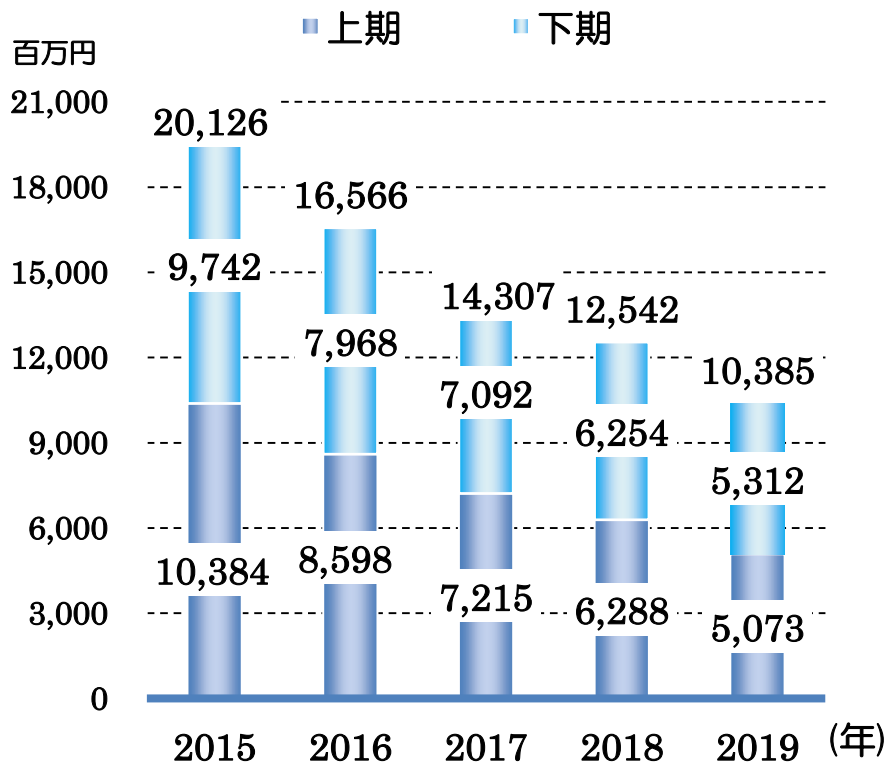
業績項目	当期実績		当期予算		前年実績	
	実績	予算	予算比	実績	前期比	
■ 受注	11,366	10,891	4.4%	11,629	△2.3%	
■ 売上	10,385	10,389	0.0%	12,542	△17.2%	
■ 売上総利益	2,622	2,560	2.4%	3,366	△22.1%	
■ 販管費	1,905	1,905	0.0%	1,942	△1.9%	
■ 営業利益	716	655	9.4%	1,424	△49.7%	
■ 営業外損益	111	83	34.8%	73	52.8%	
■ 経常利益	828	739	12.1%	1,497	△44.7%	
■ 当期純利益	526	519	1.5%	1,169	△55.0%	
■ 1株当り純利益(円)	89.72	88.07	1.9%	198.52	△54.8%	
■ 平均レート(円)	109.37	108.00	1.3%	110.57	△1.1%	



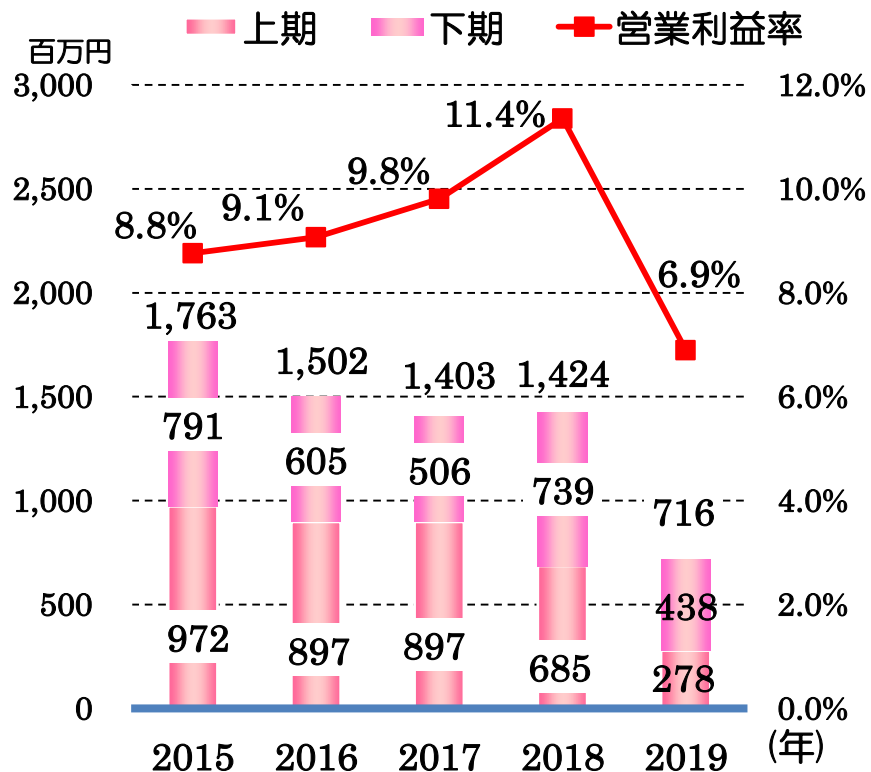
業績推移

売上高・営業利益ともに減少により利益率は前期比△4.5%

売上高



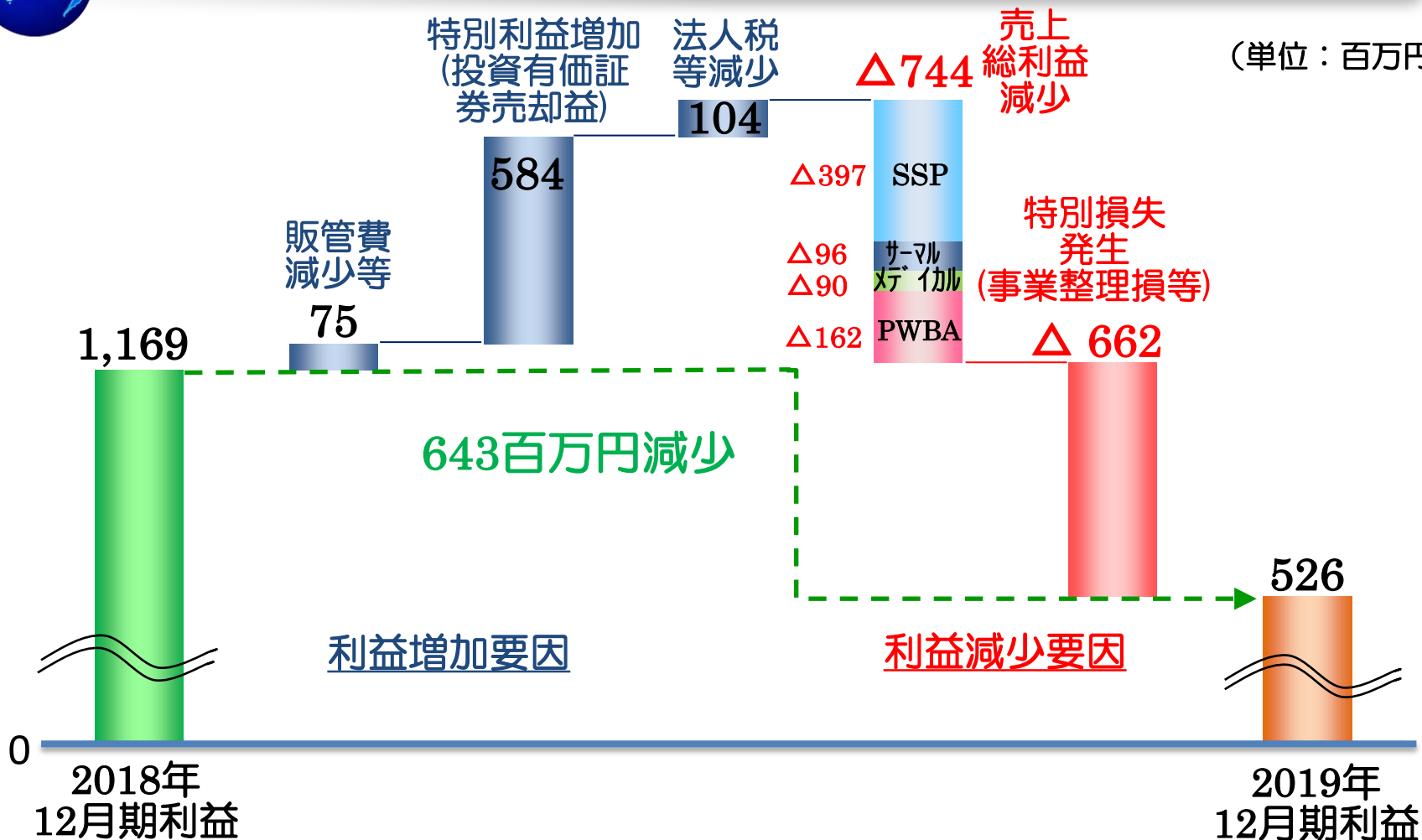
営業利益





前期比 当期純利益増減要因

(単位：百万円)

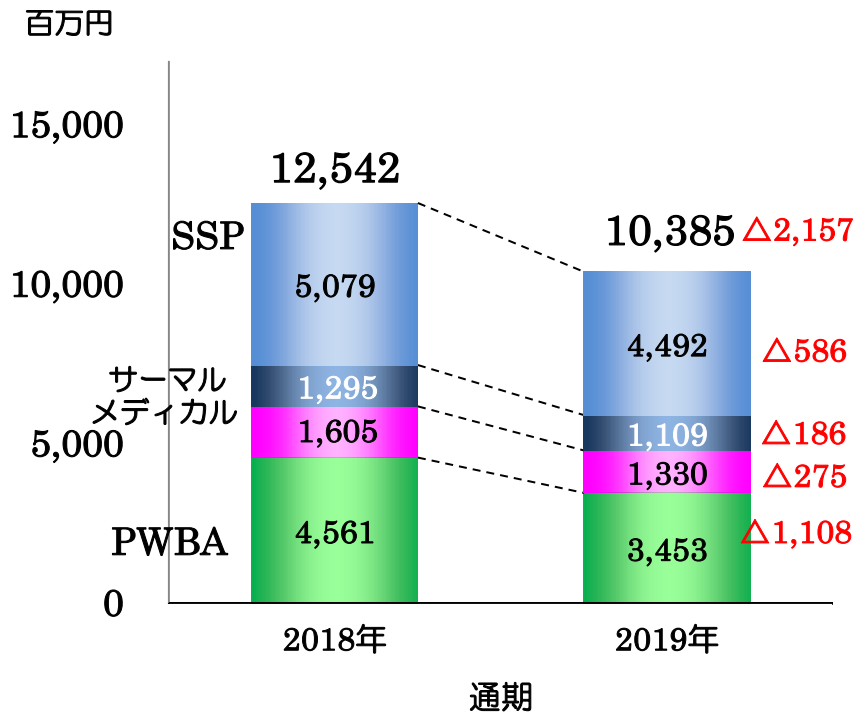


セグメント別実績

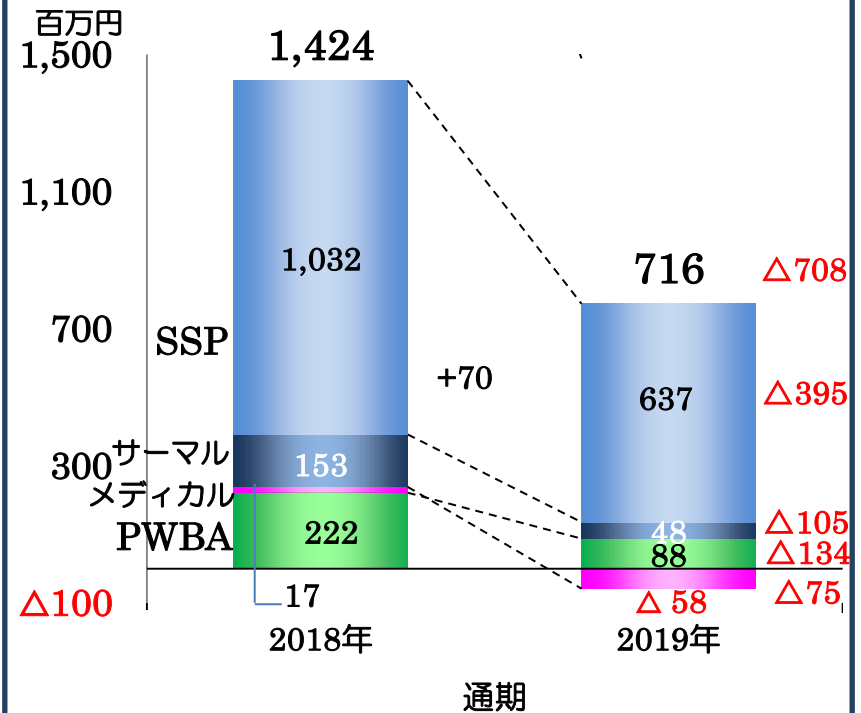


セグメント別増減明細

売上高の増減



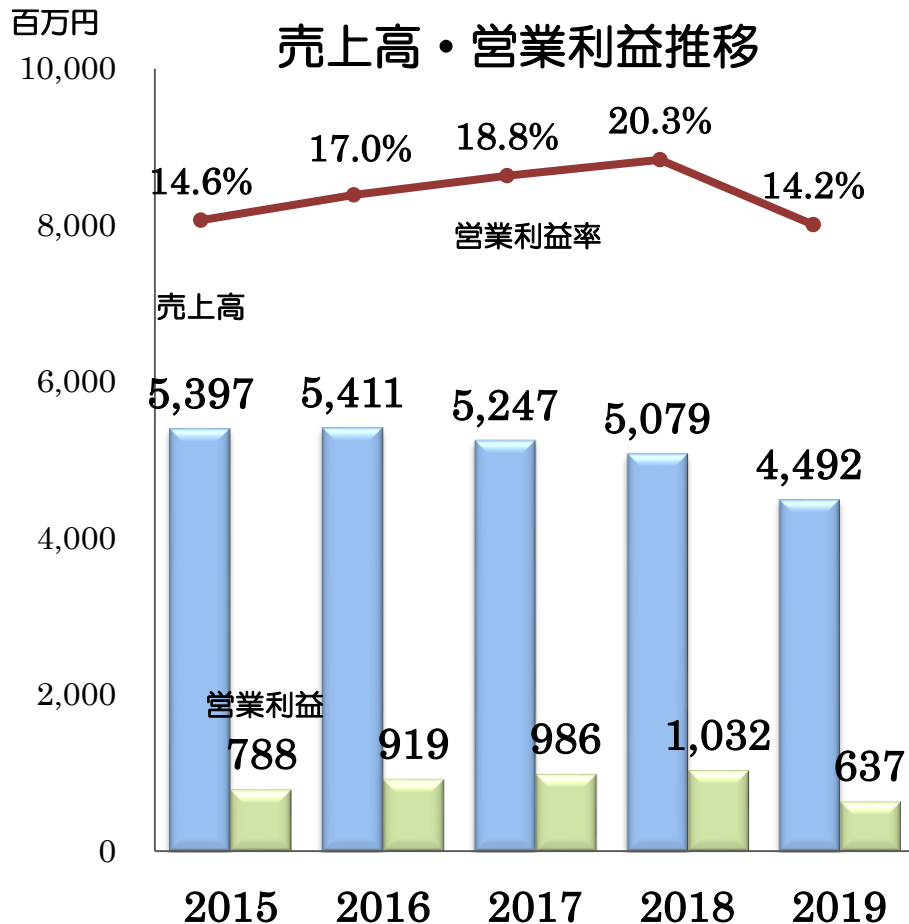
営業利益の増減



※全社費用をセグメント別に配賦



セグメント別売上高・営業利益 SSP



【減収・減益】

・売上高	前期比	△11.6%
・営業利益	前期比	△38.3%

1. 前期比較

(1) 受注高 (1,204百万円増加)

電力等基幹産業向けおよび特定客先向け特殊消火設備の受注が大幅増加

(2) 売上高 (586百万円減少)

① 前年度の受注減少の影響

② 産業用検知器 (138百万円減少)

主要客先である半導体市場の停滞により産業用検知器は減少したが、防爆型感知器は認知度向上とともに出荷が増加

(3) 営業利益 (395百万円減少)

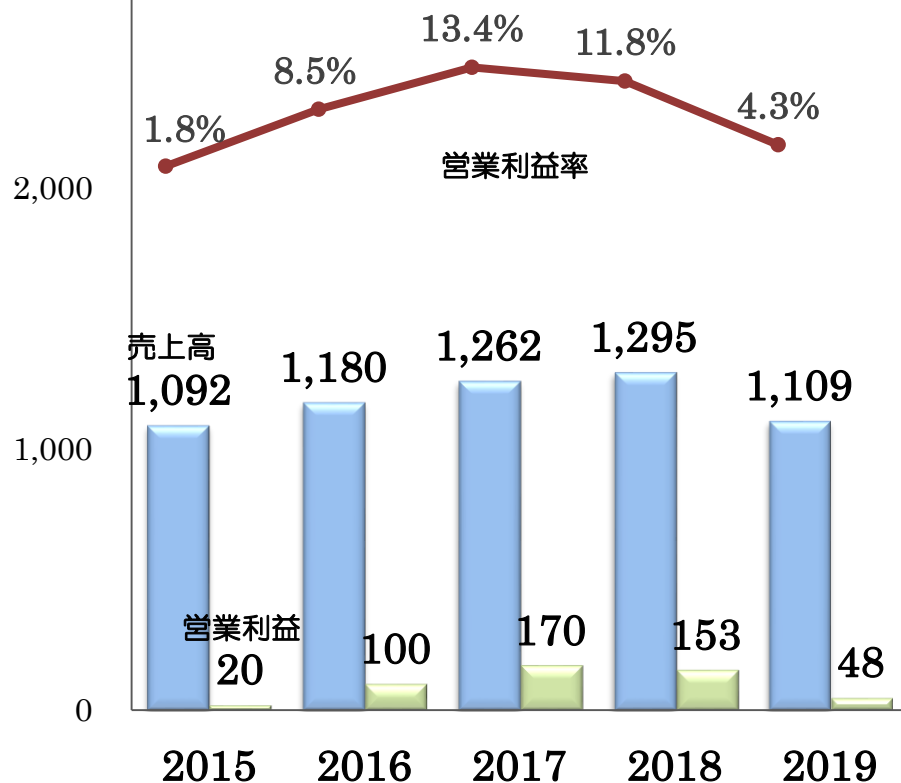
売上減少による販管費率上昇および高利益率製品販売減少により営業利益減少



セグメント別売上高・営業利益 サーマル

百万円
3,000

売上高・営業利益推移



【減収・減益】

・売上高	前期比	△14.4%
・営業利益	前期比	△68.6%

1. 前期比較

(1) 売上 (186百万円減少)

第3四半期以降、徐々に回復基調で推移

① 半導体製造装置用センサー

厳しい価格競争により利益率は若干低下したものの売上高は若干増加

② 半導体製造装置用熱板(107百万円減少)

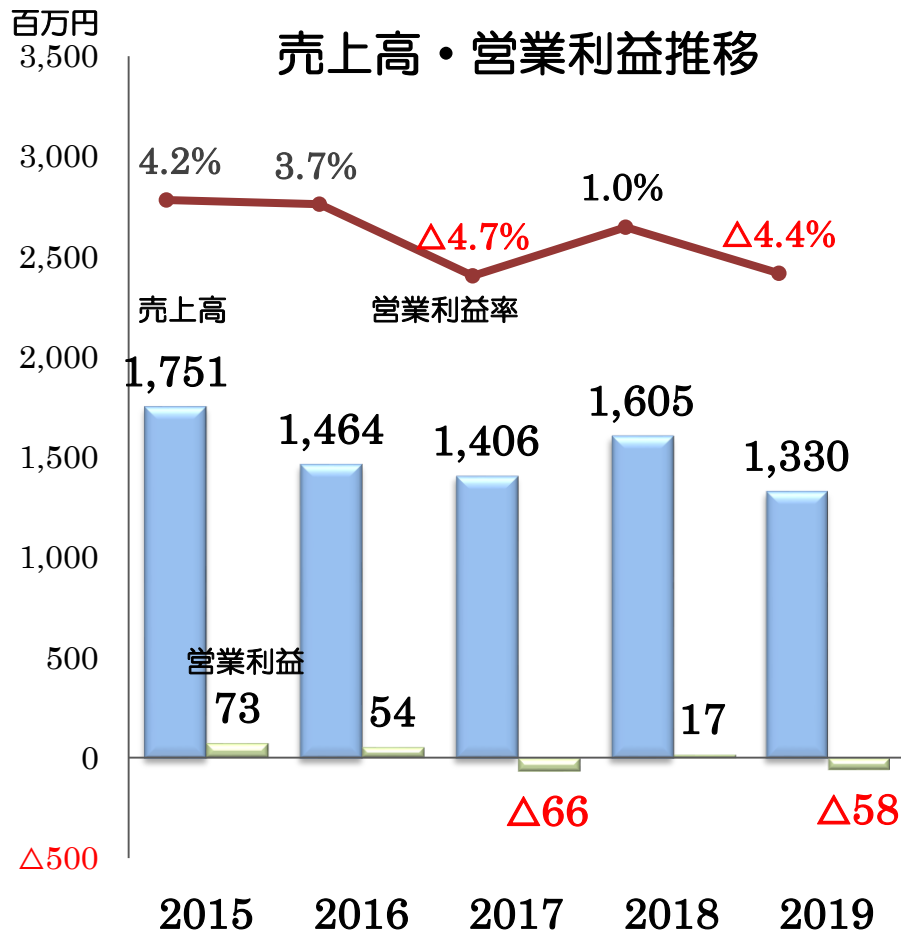
メモリ需給バランスの軟化による半導体製造装置の生産調整および主要デバイスメーカーの設備投資抑制等により売上減少

(2) 営業利益 (105百万円減少)

売上減少にともなう販管費率の上昇および売上総利益率の減少により営業利益は減少



セグメント別売上高・営業利益 メディカル



【減収・減益】

・売上高	前期比	△17.2%
・営業利益	前期比	赤字転落

1. 前期比較

(1) 売上 (275百万円減少)

① 海外向け人工腎臓透析装置 (259百万円減少)

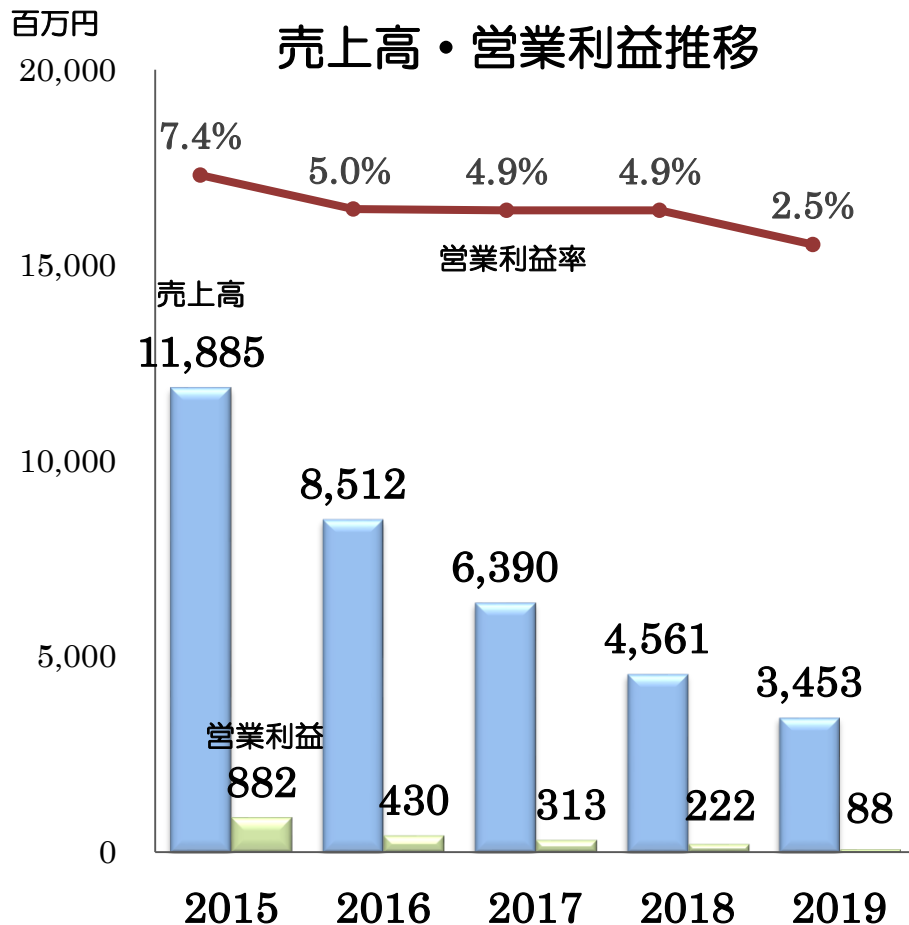
一部出荷国への後継機種において客先による認証取得遅延とその後の部品入手難により、売上が約29%減少

(2) 営業利益 (75百万円減少)

メンテナンス用部品の棚卸資産評価見直しおよび売上減少にともなう販管費率の上昇等により営業利益は赤字転落



セグメント別売上高・営業利益 PWBA



【減収・減益】

- ・売上高 前期比 $\Delta 24.3\%$
- ・営業利益 前期比 $\Delta 60.4\%$

1. 前期比較

(1) 売上 (1,108百万円減少)

① 海外子会社 (904百万円減少)

海外子会社における、受注活動停止の影響により売上が約28%減少

② 国内向け (204百万円減少)

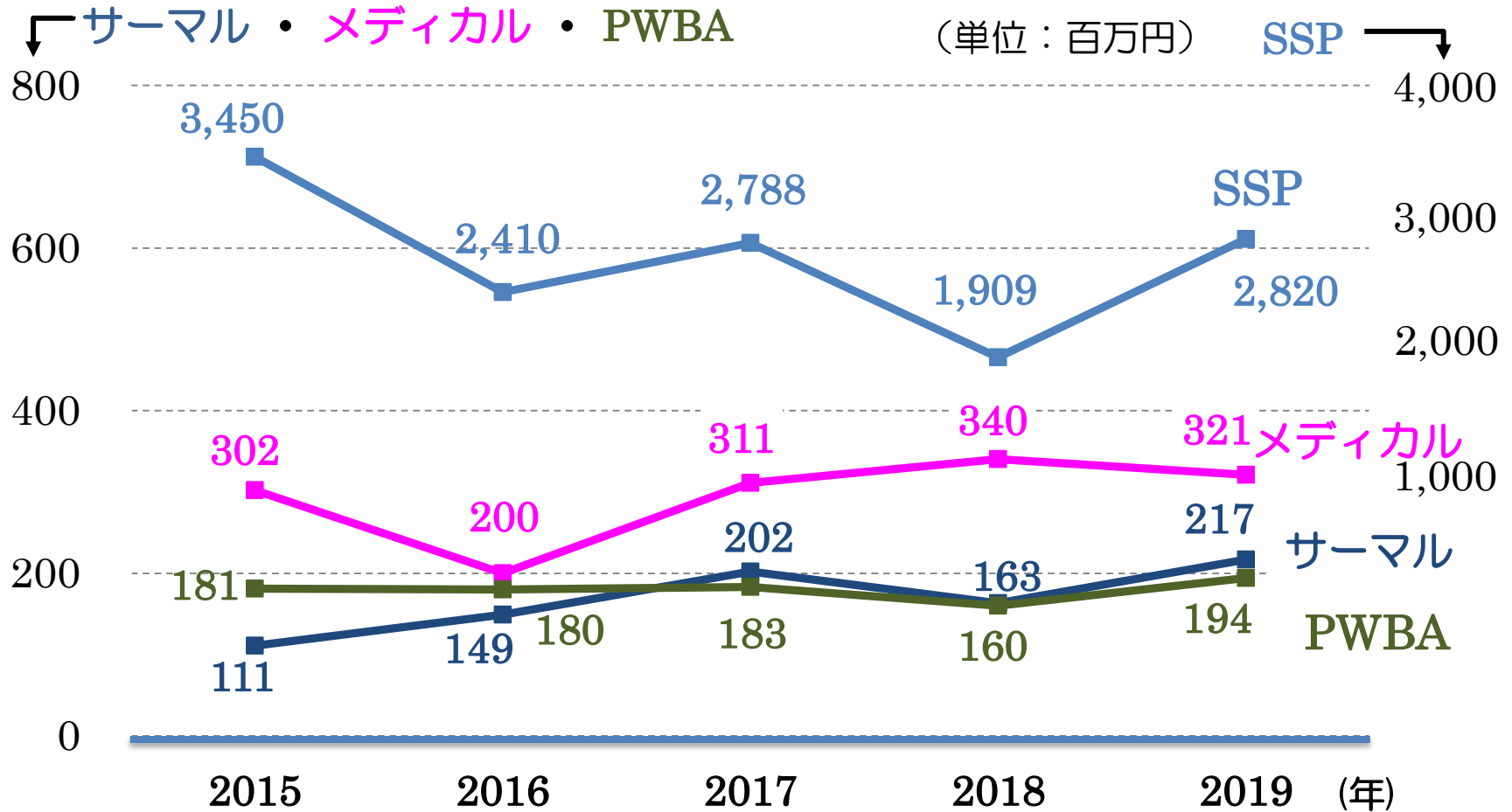
引き続き事務機器業界向けは減少傾向にあるものの医療機向けは堅調に推移

(2) 営業利益 (134百万円減少)

海外子会社受注活動停止により102百万円減少



セグメント別受注残高推移

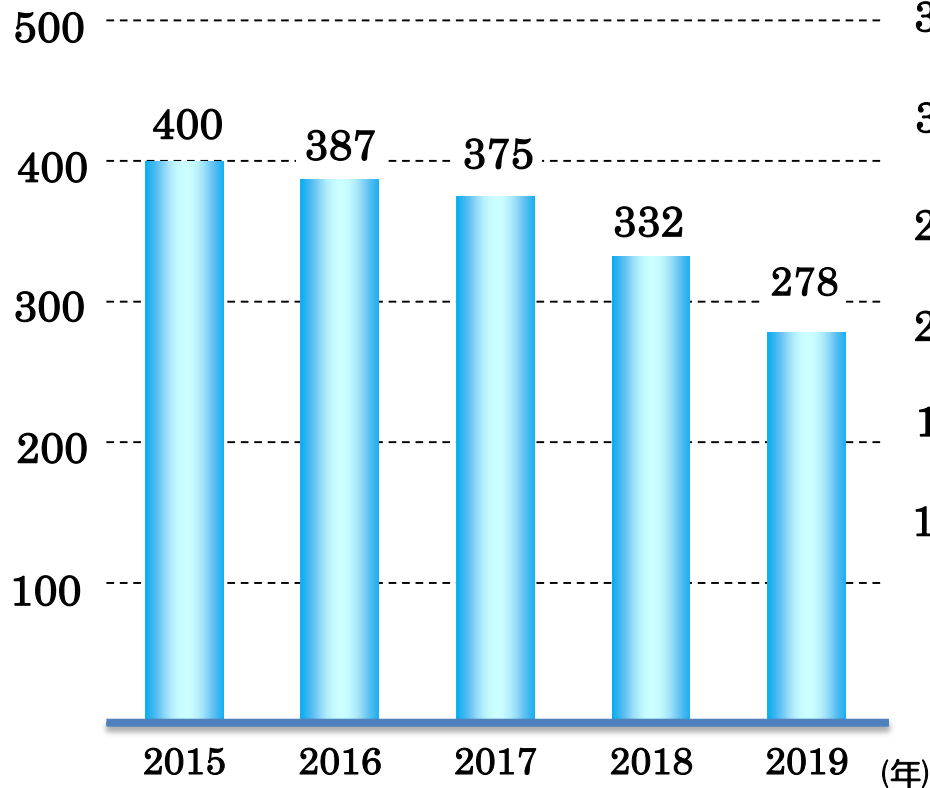


投資・財務概況・経営指標



研究開発費

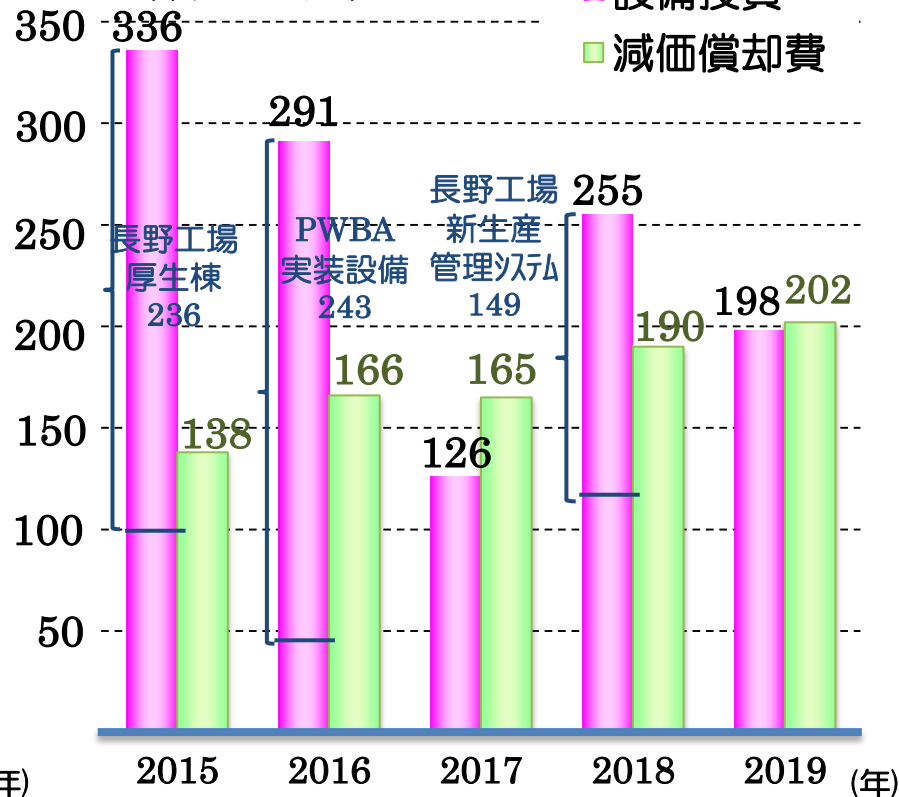
(単位：百万円)



設備投資・減価償却費

(単位：百万円)

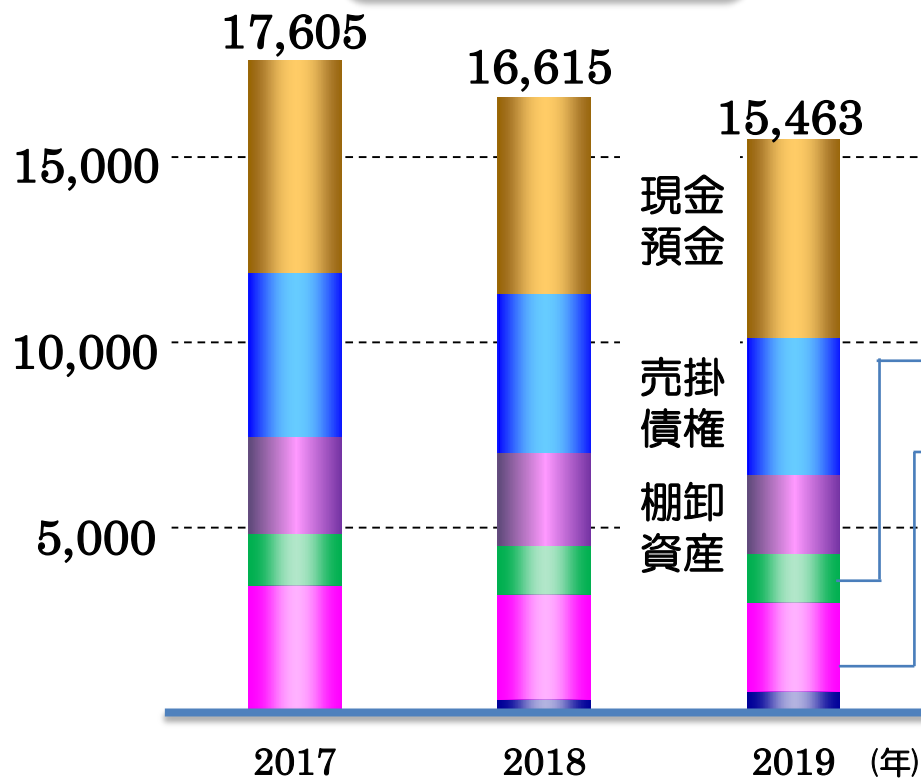
■ 設備投資
■ 減価償却費





連結貸借対照表(資産の部)

資産推移



増減内容

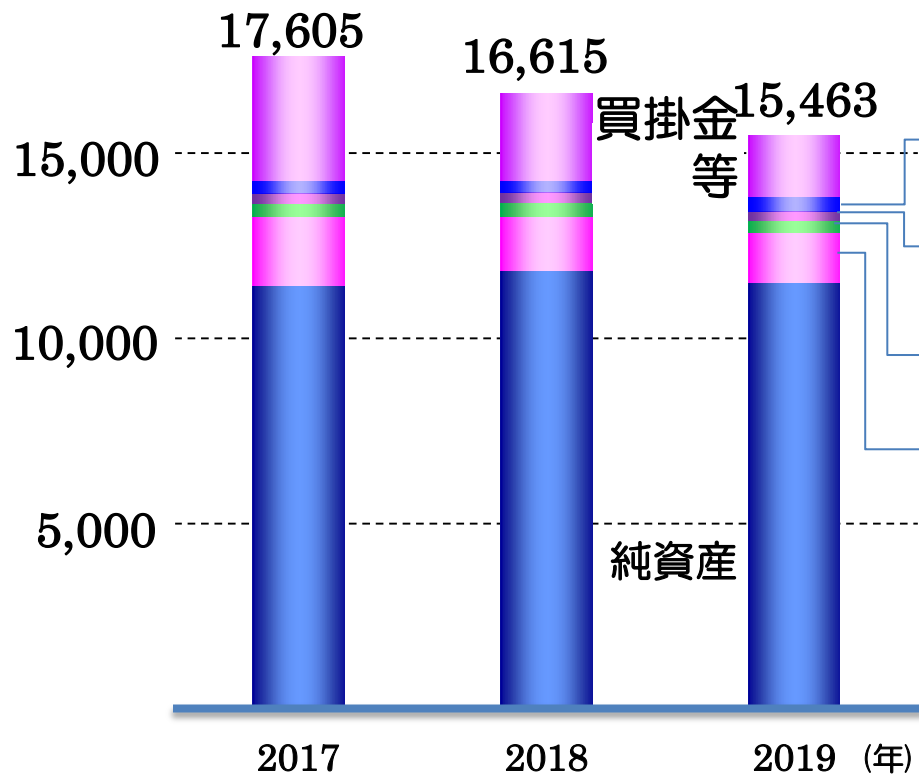
(単位：百万円)

項目	当期	前年度末	増減率
現金預金	5,341	5,287	1.0%
売掛債権	3,681	4,313	△14.7%
棚卸資産	2,151	2,496	△13.8%
固定資産	1,321	1,329	△0.6%
投資等	2,401	2,828	△15.1%
その他	568	362	56.9%
合計	15,463	16,615	△6.9%



連結貸借対照表(負債・純資産の部)

負債・純資産推移



増減内容

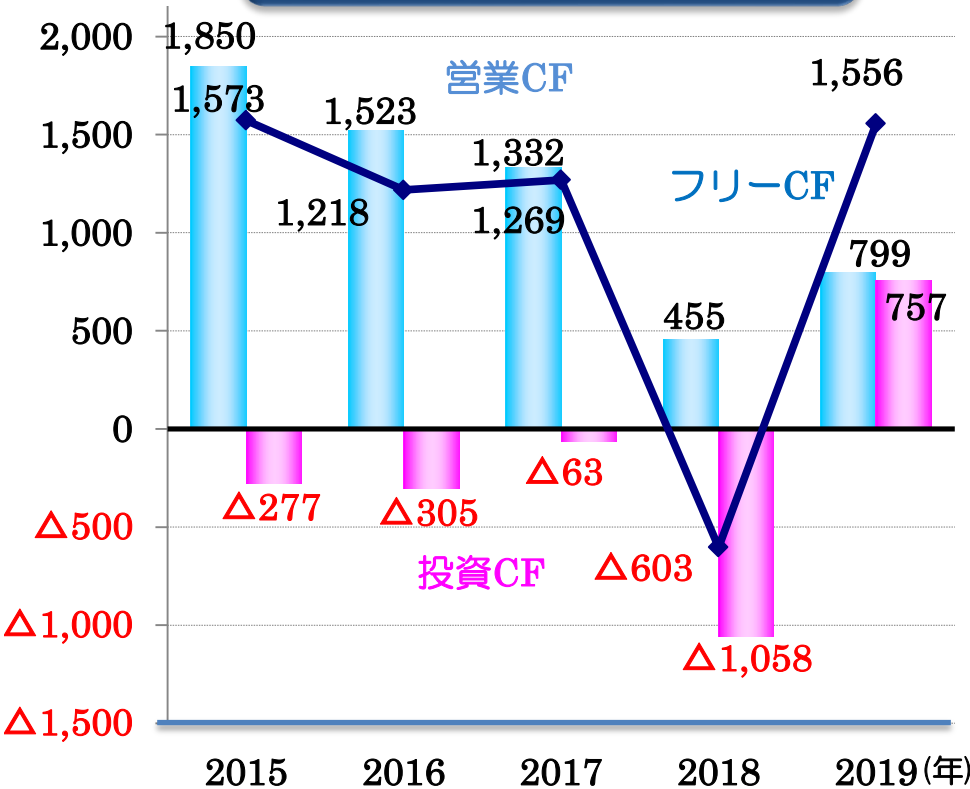
(単位: 百万円)

項目	当期	前年度末	増減率
買掛金等	1,642	2,351	△30.2%
社債	400	336	19.0%
未払法人税等	237	257	△7.8%
退職給付	324	389	△16.7%
その他	1,345	1,462	△8.0%
純資産	11,515	11,820	△2.6%
合計	15,463	16,615	△6.9%



キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー推移



増減内容

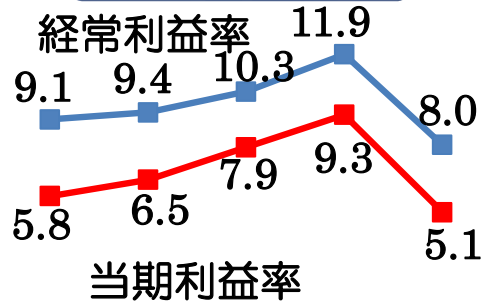
(単位：百万円)

項目	当期	前期	増減率
営業CF	799	455	75.6%
投資CF	757	△1,058	—
財務CF	△928	△450	106.2%
換算差額	△16	△40	△60.0%
合計	611	△1,093	—
期首残高	4,620	5,714	△19.1%
期末残高	5,231	4,620	13.2%
フリーCF	1,556	△603	—



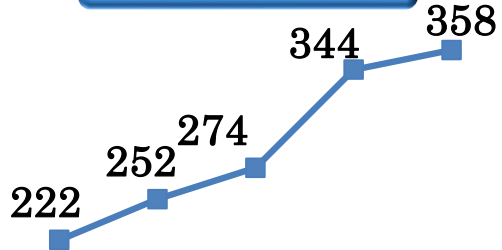
経営指標

売上高利益率 (%)



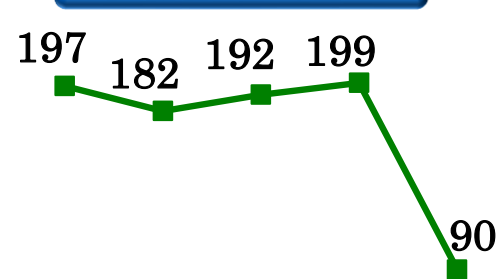
2015 2016 2017 2018 2019 (年)

流動比率 (%)



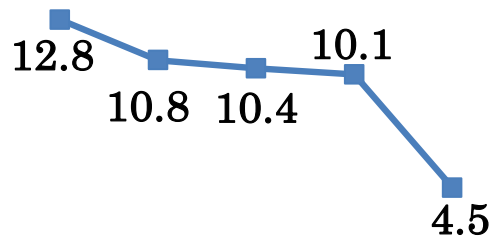
2015 2016 2017 2018 2019 (年)

1株当り純利益 (円)



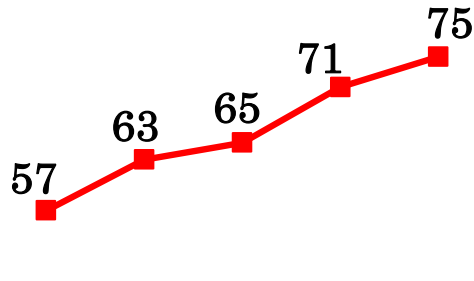
2015 2016 2017 2018 2019 (年)

自己資本 当期利益率 (%)



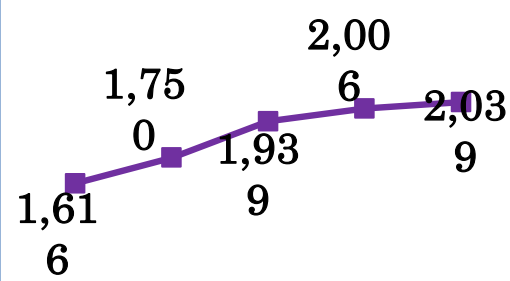
2015 2016 2017 2018 2019 (年)

自己資本比率 (%)



2015 2016 2017 2018 2019 (年)

1株当り純資産 (円)



2015 2016 2017 2018 2019 (年)

3. 2020年 12月期 通期連結業績見通し



2020年12月期 連結計画サマリー (減収増益)

計画項目

前期比 (単位:百万円)

計画項目	2020	2019	増減率
	予想	実績	
■ 売上高	9,154	10,385	△11.9%
■ 売上総利益	2,925	2,622	11.5%
■ 販管費	2,163	1,905	13.5%
■ 営業利益	762	716	6.3%
■ 営業外損益	69	111	△37.8%
■ 経常利益	831	828	0.3%
■ 当期純利益	582	526	10.5%

※想定為替レート：1USドル=107円

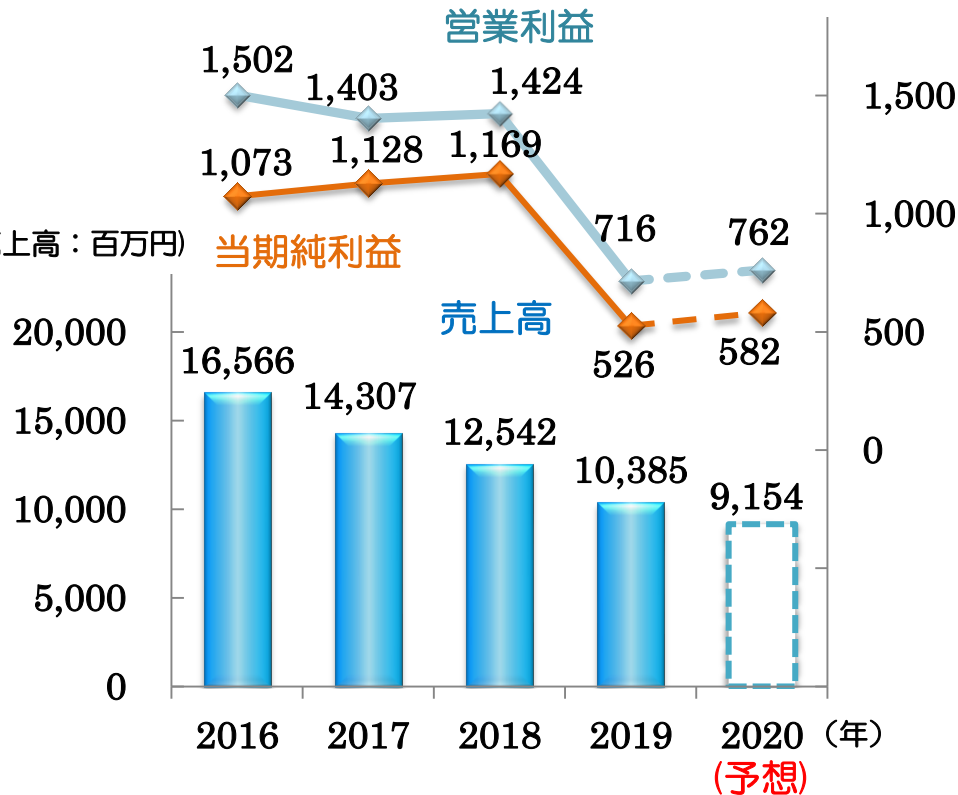


全社見通し

業績の推移（実績・予想）

(利益：百万円)

(売上高：百万円)



【減収・増益 予想】

- ・売上高 前期比 ▲11.9%
- ・営業利益 前期比 6.3%

中期経営計画の基本方針に基づき、経営基盤への積極的な投資を実施

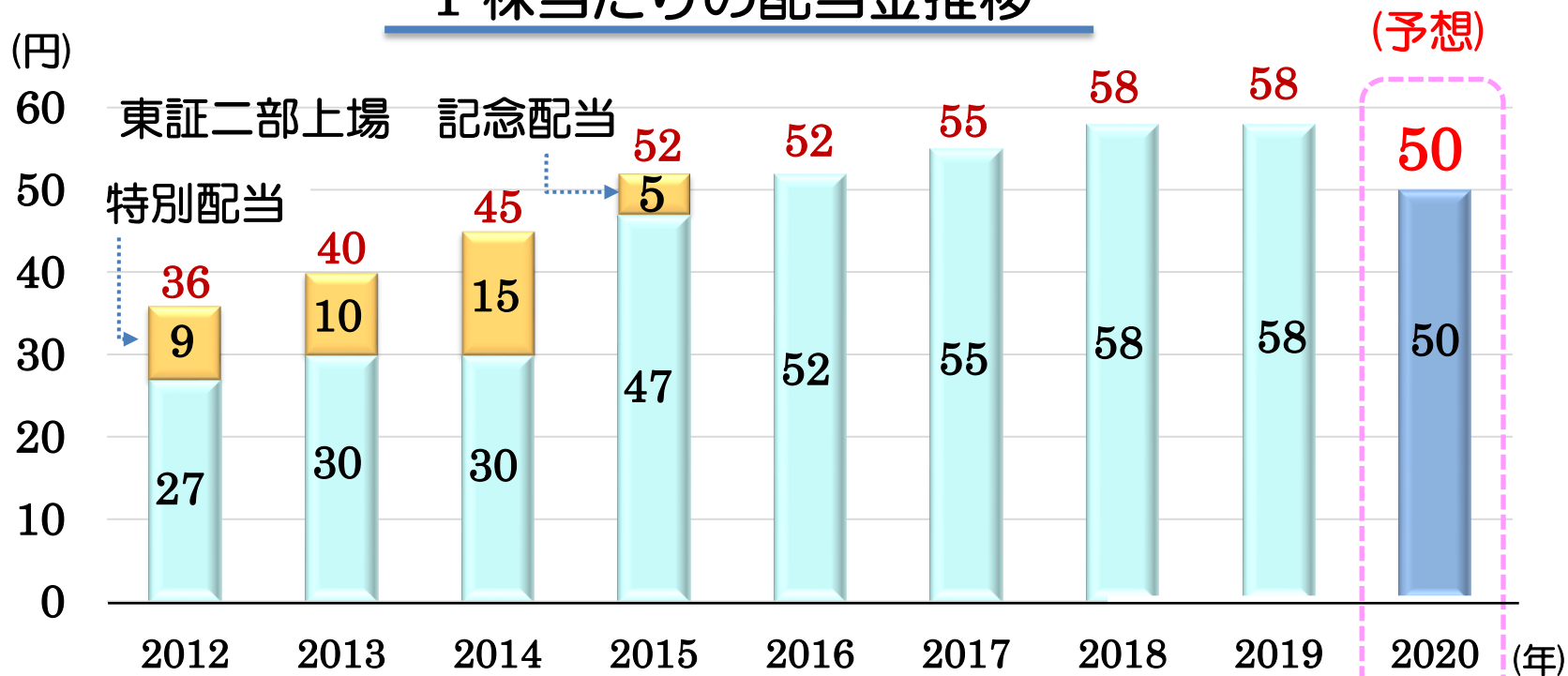
- SSPは、基幹産業向け防災設備の需要取込み及び海外販売拠点の整備
- サ-マルは、半導体製造装置用のセッサー、熱板を中心に拡販を推進
- ｼﾞｬｲｶﾙは、原価低減による収益改善、及び新製品の開発・販売に注力
- PWBAは、産業機器市場への営業展開及び協力会社との連携による技術対応力と価格競争力の強化

2020年12月期 配当について



配当金の推移

1株当たりの配当金推移







当期純利益 (百万円)	779	874	1,009	1,158	1,073	1,073	1,169	526	582
配当性向(%)	27.2	26.9	26.2	26.4	28.5	28.5	29.2	64.6	48.5

4. 新製品開発状況



新製品の開発状況

品名	特徴	進捗状況および予定	外観	発売日
防爆型3種煙感知器	防爆性能を求められる場所でシャッター、防火扉等の連動用感知器は3種の煙感知器が必要となる。	最新の防爆規格 Ex2018に適応させるため計画を見直した。		2020年7月
防爆型煙感知器海外展開	防爆型煙感知器でFMの他にATEXやIECEXの規格を取得し、米国・欧州・アジアを中心とした海外への販売を可能とする。	工場審査が終了し、ドラフトレポートが発行された。認証書を待って工場引継ぎ、上市の予定。		2020年7月予定
S-net受信機	見やすい・わかりやすい・操作しやすいタッチパネル内蔵大型表示部を踏襲し、新パワーコミュニケーションラインによるアナログ伝送内容が大幅に改良。信頼性も向上した。	改良されたパワーコミュニケーションラインへ接続できる異なる検出方法のアナログ式スポット型感知器の開発を並行して進めている。		発売開始 感知器を拡充中
多チャンネル熱板	半導体の製造装置に搭載され、シリコンウェハに塗布したレジスト材料の加熱硬化などを行うために使用される。	基礎実験、試作を行い、開発進行中。		2022年8月予定

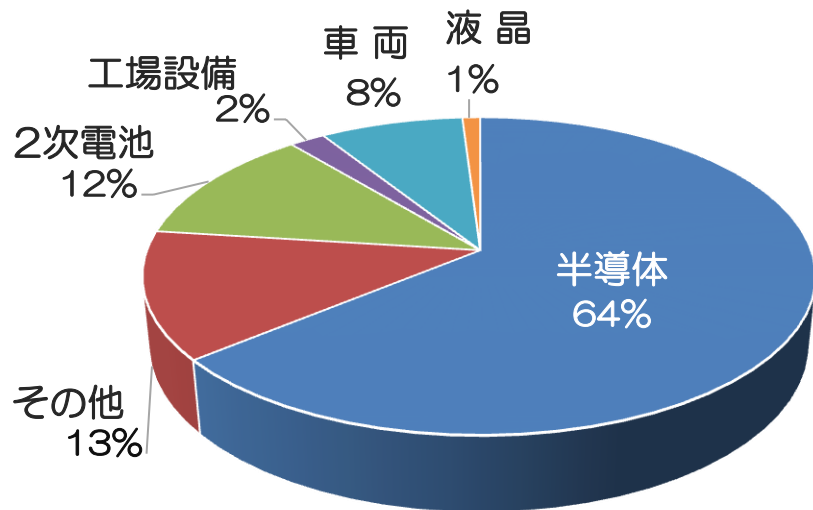
品名	コンソーシアム	コンソーシアムの動き	当社の動き	発売日
IoT	FIELD System EDGE CROSS	各コンソーシアムは会員数を増やしており、基本ソフトなどの出荷数も増えている模様。	工場のIoT分野へ 煙検知器単体での参入は難しいものがある。今後、様々な顧客からの要求にこたえられるようにするべくIoTの要素技術について、準備をしておく。顧客要望に対してオンデマンドで対応する。	見直し

5. 参 考 資 料



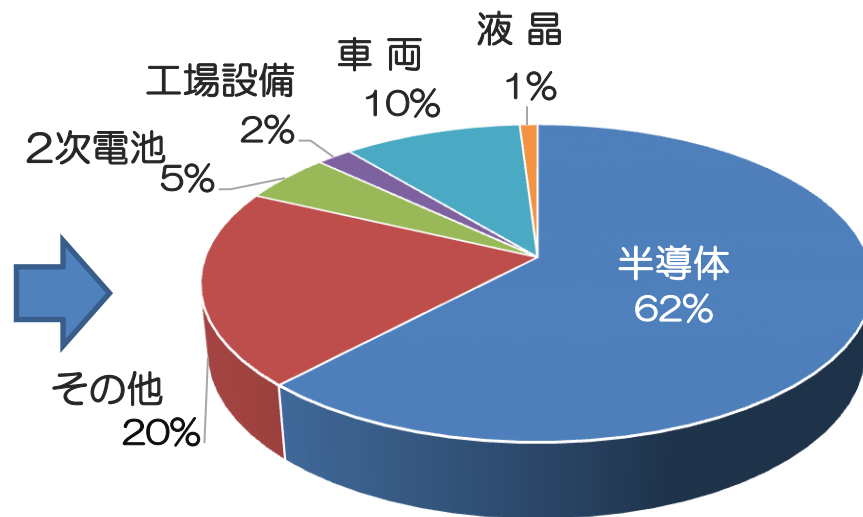
Fシリーズ（産業用検知器）の納入実績

2018年 納入業界



売上 323百万円

2019年 納入業界



売上 185百万円

販売割合が増加した先

- 車両向け
- その他（風車、印刷機）向け

販売割合が減少した先

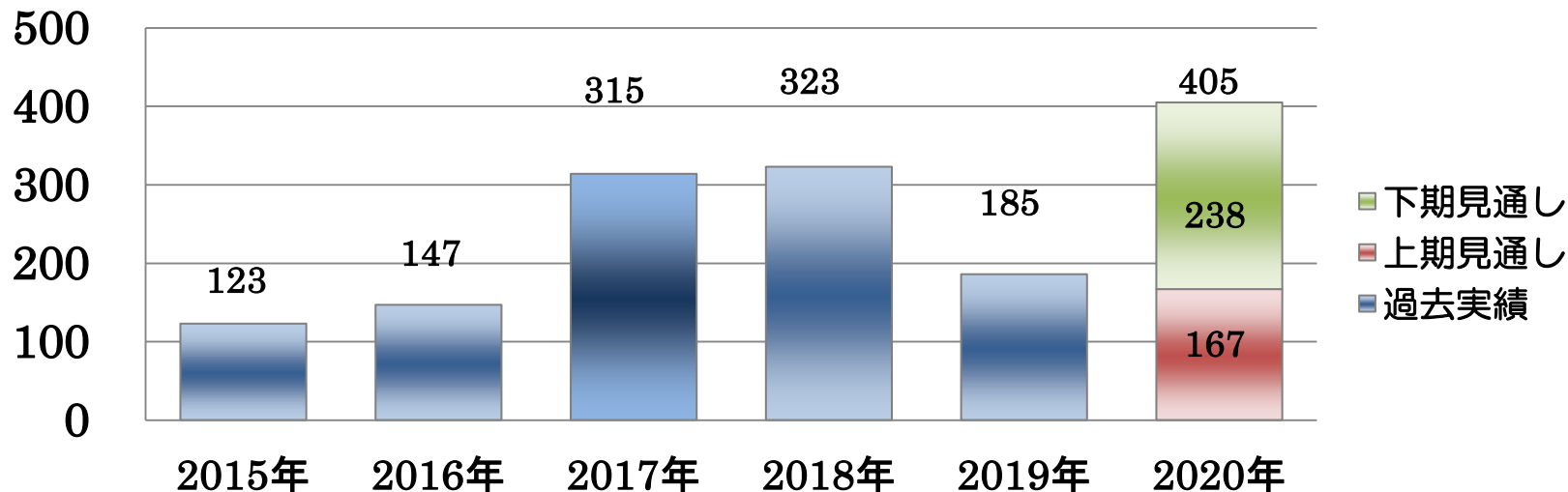
- リチウム電池製造メーカー向け



Fシリーズ（産業用検知器）の売上実績

Fシリーズ売上高推移 (2019年12月末時点予測)

(単位:百万円)



【2020年度売上予測】 405百万円

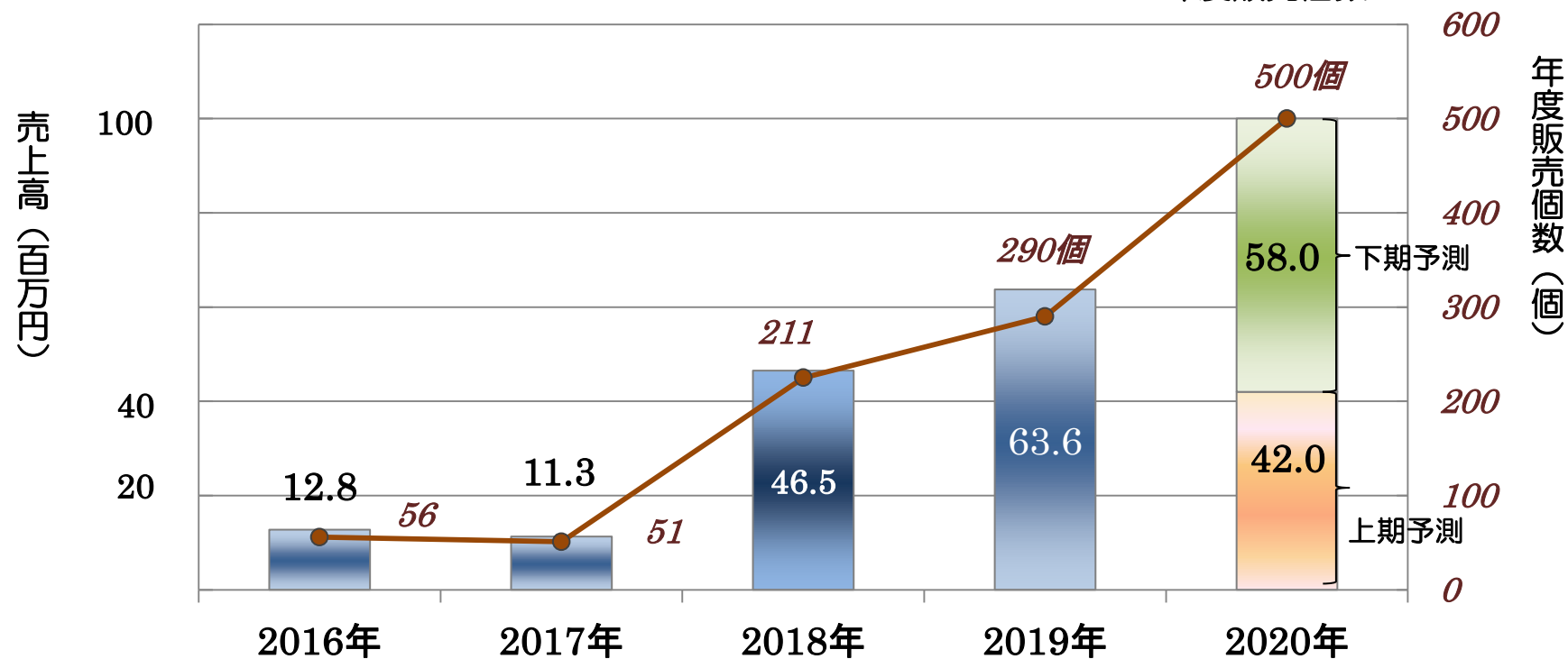
(重点販売先)

- ① 半導体市場向け
- ② 電力基幹設備向け（原子力施設含む）
※工期延期案件についても継続受注
- ③ 海外市場向け（台湾、中国、東南アジア）
- ④ 工場向け（保全対策、防災対応、IoT化）
※鉄鋼、化学、電池メーカー工場設備
- ⑤ 車両、搬送機、工作機器向け



耐压防爆型煙感知器の売上実績

耐压防爆型煙感知器売上高推移 (2019年月末時点予測)



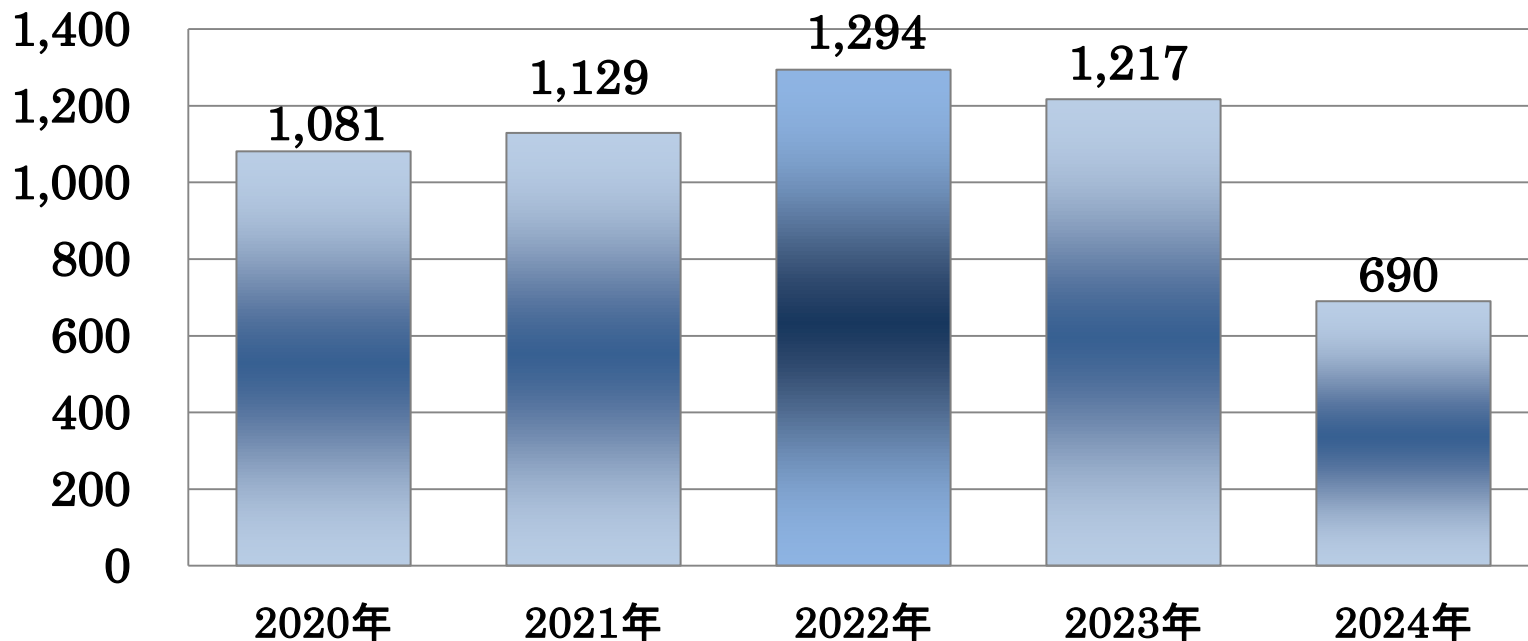


特殊防災設備（原子力発電施設向け）の受注見通し

今後5年間で 50億円程度の案件量が見込める

(単位:百万円)

原子力発電所向け受注見込



■ 注意事項

本資料に記載されている内容は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社が作成したものでありますが、特に見通し情報等につきましては、市場環境、為替レート等々様々なリスクや不確実性を内包しておりますので、当社の予測とは異なる可能性があります。

■ お問い合わせ先

日本フェンオール株式会社

執行役員 管理統括部長 田原 康治

E-mail : yasuharu.tahara@fenwal.co.jp

住 所 : 〒102-0072

東京都千代田区飯田橋一丁目5番10号

電 話 : 03-3237-3561

ご清聴ありがとうございました。

2020年2月27日

日本フェンオール株式会社